指導と評価の年間計画（シラバス）

学校番号	1205
大阪府立岬高等学校　総合学科	

令和　　2 年度　　福祉　　科

教科	福祉	科	科目	社会福祉基礎	単位数	2　単位	年次	2　年次
使用教科書（出版社）	社会福祉基礎（実教出版）							
副教材等（出版社等）	なし							

1．担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会福祉に関する基礎的、基本的な知識を学びます。主に児童・高齢・障がいの3分野について、基礎的な技能、知識を身につけ、社会福祉の意義を理
解する。実際に福祉の現場を見学するなど、実践的な学習、体験も行います。

2．学習の到達目標

社会福祉に関する基礎的な知識・技能を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、人間としての尊厳や認識を深め社会福祉の向上を図る態度を育てる。

3．学習評価（評価基準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：技能	d：知識・理解
観点の 趣旨	各分野において感心を持ち社会での役割を認識することができている。 受身ではなく主体的に考え行動しようとしている。	各単元ごとで学習したことを元に課題を見出し、思考を深め、適切に判断することができる。 社会における自分の役割を理解することができる。	実践授業において、介護等に関する技術を身につけることができる。 状況に応じた適切な介護等を行うことができる。	社会福祉に関する基礎的な知識を身につける。 社会の一員として役割を考え、判断することができる。
評価 方法	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 実習記録、レポート 自己評価　等	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 定期考査 自己評価　等	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 実習記録、レポート 実技テスト 自己評価　等	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 定期考査 自己評価　等
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4. 学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元（題材）の評価規準	評価方法
1学期	現代社会と社会福祉 児童・家庭の福祉	第1章 現代社会と社会福祉	人の一生を人間の発達過程により理解し、家族・家庭との関係や社会福祉との関連性について考える。	○	○		○	a:児童・家庭の福祉に関心を持ち、社会での役割を認識することができる。 b:学習内容を元に課題を見出し、思考を深め、適切に判断できる。 c:実践授業において、介護等に関する技術を身につける。 d:児童・家庭の福祉に関する基礎的な知識を身につける。	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 実習記録、レポート 自己評価　等
		第2章 私たちの一生と社会福祉	ライフサイクルの意味について理解し、ライフステージの意味について理解し各段階における生活課題について考える。	○	○	○	○		
		第3章 児童・家庭の福祉	児童の健全育成に必要な「居場所」作りについて考える	○	○	○			
2学期	高齢者の福祉 障がい者の福祉 公的扶助	第4章 高齢者の福祉	高齢者福祉の取り組みについて理解するとともに実際に高齢者体験等を行い健康づくりなどの課題について考える。	○		○	○	a:高齢者・障がい者の福祉に関心を持ち、社会での役割を認識することができる。 b:学習内容を元に課題を見出し、思考を深め、適切に判断できる。 c:実践授業において、介護等に関する技術を身につける。状況に応じた適切な介護等を行うことができる。 d:高齢者・障がい者の福祉に関する基礎的な知識を身につける。	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 実習記録、レポート 自己評価　等
		第3章 障がい者の福祉	障がいの区分について考える。障害を持つ人と関わり障がいとはどういうものなのかを考える。	○		○	○		
		第6章 公的扶助	貧困問題等について理解し、生活保護制度の役割について考える。 生活保護の動向や事態について理解し考える	○	○		○		
3学期	社会福祉の役割	第7章 地域の福祉	地域社会で生じるさまざまな生活問題に対応するボランティアの存在とその役割について考え、実際に行う。	○	○	○	○	a:地域の福祉に関心を持ち、社会での役割を認識することができる。 b:学習内容を元に課題を見出し、思考を深め、適切に判断できる。 c:状況に応じた適切なボランティア活動等を行うことができる。 d:福祉の視点に立った街づくりに関する基礎的な知識を身につける。	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 実習記録、レポート 自己評価　等
		第9章 福祉社会の創造	街づくりに必要な福祉的視点について考える。 ボランティア活動の意義を理解するとともにボランティア活動をめぐる新しい動きについて考える。	○	○	○	○		